

東京都脳卒中救急搬送体制実態調査 評価検証について(議論のタタキ台)

1 目的

脳卒中患者のより一層の救命と後遺障害の軽減を目的とする「東京都脳卒中救急搬送体制」について、実態調査結果を分析し、脳卒中を発症した都民誰もが、迅速に適切な医療機関に搬送されて適切な脳卒中急性期治療を受け、その結果、より一層の救命と後遺障害の軽減につながっているか、検証し、課題や要改善点の有無を把握し、必要な改善策の検討を行う。

2 おもな検証事項

A)都脳卒中救急搬送体制のフローの検証

	検証事項	データ	検証の視点など
1	発症から速やかな 119 番通報	発症時刻～覚知時刻	・短縮を図るための効果的な方法
2	119 番通報から早期に搬送	覚知時刻～病院到着時刻	・全般的に要短縮か、長時間ケースの減少か
3	救急隊による脳卒中疑い有無判断	脳卒中疑いの有無判断と確定診断 …アンマッチケース(件数・要因)	・改善の要否
4	脳卒中急性期医療機関に搬送	搬送先医療機関の種類 …脳卒中急性期医療機関か 脳卒中急性期医療機関の場合、 A体制・B体制の別 …三次救急・二次救急の別	・脳卒中急性期医療機関数は適当か ・A体制かB体制か搬送先医療機関を選択する際の「発症～24 時間経過か否か」の基準の妥当性
5	各脳卒中急性期医療機関の体制	転送・転院搬送ケース(件数・要因) …脳外科的処置に関する他病院での対応ケースの有無 など おもな治療の実施状況 …t-PA 治療など 3 種(件数、転帰)	・脳卒中急性期医療機関認定基準の妥当性

B)患者の特徴の把握

- 例)・3疾病(脳梗塞・脳出血・くも膜下出血)別
- ・二次保健医療圏域別・発症時刻の時間帯別・発症した日の曜日別
- ・患者の年齢層別・男女別・既往症の有無や種類別

C)AとBのクロス分析

都民誰もが安心できる脳卒中救急搬送体制になっているか検証するため、A)B)の検証項目についてクロス分析する。

- 例) 発症から119番通報までの時間データ × 3疾病別
- ⇒ クロス分析結果「脳梗塞だけ著しく長い」となったとしたら、
脳梗塞の発症疑いの見極めについて、より効果的な普及啓発の実施を検討

3 分析データ範囲

実態調査結果のうち、以下の①②いずれも満たすケース 全659件

①救急隊、医療機関、双方のデータが揃っている患者のケース

…除外対象:都外の医療機関への搬送分、医療機関が未回答分

②救急隊が脳卒中の疑いあり、としたケースまたは医療機関が確定診断で脳卒中としたケース

…除外対象:救急隊が「脳卒中の疑いなし」とし且つ確定診断名が脳卒中以外のケース

4 評価検証部会での検討

- (1)調査結果の分析
- (2)課題及び改善策の検討
- (3)第2回調査の検討

5 スケジュール(案) 別紙のとおり